



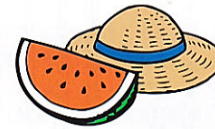
# 平成二十四年度 定期総会開催

## 二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊  
平成24年7月31日発行  
(第77号)

二松学舎大学父母会  
(本部・事務局)  
東京都千代田区三番町6番地16  
二松学舎大学教学課

題字は  
故 観山貞廣常吉先生書



平成二十四年五月二十六日(土)  
午後一時三十分、九段一号館二階  
二〇二教室において、平成二十四年  
度二松学舎大学父母会定期総会が開  
催された。  
総会に先立ち、本学国際政治経済  
学部・押野洋教授による「日本人の  
知らないドイツ・ドイツ人」と題し  
た講演会が行われた。  
午後二時三十分、鳴海るみ子氏の  
司会により総会が開会され、篠塚義  
光父母会長、渡辺和則学長がそれぞ  
れ挨拶をした後、三輪秀彰議長によ  
り議事に入った。  
第一号議案の平成二十三年度事業  
報告並びに決算については、審議の

結果、原案どおり承認された。  
第二号議案の平成二十四年度役員  
選出は、会長に岩田秀生氏、続いて  
会計監査に権平雅子氏と星照子氏が  
決定した。  
第三号議案の平成二十四年度事業  
計画並びに予算が審議され、それぞ  
れ原案どおり承認された。  
議事終了後、平成二十三年度で役  
員を退任した篠塚義光氏・堀川智子  
氏・塩澤尚子氏・栗田順子氏・月永  
美世香氏の五名に渡辺学長から感謝  
状と記念品が贈呈され、総会は終了  
した。  
午後四時から、会場を十三階のラ  
ウンジに移し、教職員と父母との懇  
親会が開催された。

平成二十四年度  
二松学舎大学父母会定期総会会場  
一、講演会 十一時三十分、  
二〇二教室(大ホール)ドイツ人  
講師 観山貞廣(常吉)先生  
二、定期総会 十四時三十分、  
二〇二教室



新入生父母の皆様、お子様のご入会おめでとうございます。また、父母会にご入会いただき、ありがとうございます。役員一同、心から歓迎申し上げます。

## 学生のための父母会活動

父母会会長 岩田秀生



会独自の奨学金支給・就職指導・新入生歓迎会・大学祭への助成金支給・卒業パーティー開催とアルバム贈呈・外国人留学生支援等を、大学に対しては先生方の研究への助成・校舎の環境整備補助等を行っていま

設立後二十年の節目を迎える本学父母会は、今年度も「学生のための父母会活動」を基本方針に、「子供達に役立つことは何か」という視点を最優先にしつつ、緊密な連携を通じて大学の発展・向上にも貢献して参りたいと考えています。

父母会では、子供達に対しては課外活動助成・学生顕彰・父母活動指導・新入生歓迎会・大学祭への助成金支給・卒業パーティー開催とアルバム贈呈・外国人留学生支援等を、大学に対しては先生方の研究への助成・校舎の環境整備補助等を行っていま

また父母交流の場として定期総会・地区別父母懇談会を主催し、大学祭では特設ブースを設置しています。特に地区別父母懇談会は大学の現況、学生の就職・学習状況等の詳細な情報を得ることが出来ますので、積極的なご参加をお願い致します。さらに、大学や学生の情報を提供する広報活動として「年4回」父母会報を発行し、過去からの発行済会報を父母会ホームページで閲覧出来る様にしています。

日本では今後、高齢化・人口減少による経済活動の低下が懸念され、就職・進学状況はより一層厳しさを増すものと予想されます。しかしながら、日本人は元来勤勉で、環境変化に対応出来る柔軟さを持ち合わせていることもまた事実です。私達の大切な子供達が今までに習得した知識と知恵、若さの特権である体力等をベースに培われた真の実力を遺憾なく発揮出来る様に支援していくことが父母会の重要な役割と考えており、お預かりした会費はその目的に叶う様、より良い支援策を役員会で検討し有効活用して参りますので、父母の皆様もご提案・ご意見をを通じてご支援・ご協力をいただきました。宜しくお願い申し上げます。

## Reborn 二松学舎大学

理事長 水戸英則



本学は、百三十五年の歴史と伝統を大切にしつつ、新時代の要求に応える教育理念を持ち、皇居と千鳥ヶ淵を目前にした都心に立地し、この上ない条件に恵まれている。往年は、夏目漱石、犬養毅、嘉納治五郎など多士済々の著名人を輩出し、教員に年間百五十から二百名も合格者を出した名門校である。このプランドイメージを取り戻すべく、長期ビジョン計画は進んでいる。現在、三十代から四十代の若手教職員を中心にワーキンググループの議論が終わり、本学の建学の精神、「東洋の精神による人格の陶冶」を踏まえ

ご父母の皆さんは、子弟の大学の勉強のこと、クラブ活動のこと、将来のことなどについて、子弟と対話していらっしゃいますか。「大学生ともなれば大人なのだから」とか「聞くに嫌がられるから」などと思わず、子弟との対話を心掛けてください。

私は学生時代、親元を離れて下宿生活をしましたが、母は、ラーメン、お菓子、自家製の梅干しや漬物などを、故郷の近況を記した短い手紙と送ってくれました。それを受け取る度に、私は母からの強い励ましを感じ

て、育成すべき人材像を明確にし、これを実現するために、二松学舎大学・同附属高校・同中学における教育をどう展開していくべきか、またわが国が直面するグローバル化、情報社会に適應できる人材を育成するため、どのようなカリキュラムを編成すべきかなど、抽出された課題は、山ほどある。さらに学生・生徒の入学から在学中、卒業までの諸々の支援体制を充実強化する施策の課題抽出、大学九段キャンパスの拡充など議論は、深夜まで及んだ。このように、二松学舎大学を再生するための惜しみない関係者の努力が、私

われており、これこそが、二松学舎のDNAの再生事業である。私の頭にある理想の大学は、歴史と伝統を守り、新しい時代に適應できる教育を行い、社会に評価される大学であり、その素質を十分に持っているのが、二松学舎大学である。従って、長期ビジョンを実現する形で、この大学がさらにブランドアップされ、理想の大学になってもらいたいと考えている。

事為さざれば成らず」という言葉があるように、子弟には、寸暇を惜しんで勉強してもらいたいと思います。そうすれば、必ずや大きな将来を望むことができます。お互いに頑張りましょう。



### 木村一成

本年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。韓国語を学びたいという娘とオーブンキャンパスに出かけ、担当いただいた先生に親身に対応いただき、二松学舎の歴史や校風に触れることで、大好きになったようです。素敵な友達との出会いもあり、毎日の学校生活を楽しく過ごしております。役員は初めての事で、何もわかりませんが、学校のため、学生さんのために少しでもお役にたてればと思います。

### 小沢規久子

今年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。大学での役員は初めての経験となりますが、皆様に教示いただきながら精一杯努めさせていただきます。娘の高校は二松学舎で、高校でもいくつかの役員活動をさせていただきました。九段下の静かな環境が、母娘共々好きなので、役員という形で私も九段下に通える事を嬉しくも感じております。どうぞ宜しくお願いいたします。

### 新役員紹介 — 役員に就任して

#### 倉持政江

本年度、父母会役員として務めさせて頂く事になりました。娘が二松学舎大学に入学する事が決定した時、高校の先生方が「二松学舎はとても面倒見の良い大学だよ。」と言われ、すぐ安心してこのことを覚えてます。役員として学生達が少しでもより良い学生生活が送られる様、お手伝いが出来ればと思っております。

#### 田中福男

ご挨拶申し上げます。今年文学部国文学科に入学させて頂きました娘の父の田中と申します。

微力ではありますが、精一杯頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

学校の父母会役員になりますのは、現在大学四年の息子が高校生の時に、三年間父母会の役員をさせて頂いております。高校と大学では色々違う事があると思いますが、諸先輩方にお教えを頂きながら務めさせて頂きたいと考えております。

## 平成24年度 二松学舎大学 父母会定期総会議事録(抄)

日時：平成24年5月26日(土) 13:30~17:30  
場所：九段1号館 202教室  
講演：「日本人の知らないドイツ・ドイツ人」  
二松学舎大学教授 押野 洋先生

出席者：本年度会員数 2,991名  
委任状 1,074名  
出席者 63名 合計1,137名  
大学側：渡辺学長、吉崎副学長、高野学務局長、井上教学事務部長、高柳怕事務部長、志村教学事務部副部長、平田教学課長補佐

会長 岩田秀生氏  
会計監査 権平雅子氏 星照子氏  
三輪議長が大学側から推薦された各氏について諮るところ異議なく承認された。  
続いて岩田新会長より就任の挨拶があった。

◇第Ⅲ議案〈平成24年度事業計画並びに予算〉  
岩田新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ渡辺学長より感謝状と記念品が贈呈された。  
篠塚義光氏、堀川智子氏、塩澤尚子氏、  
栗田順子氏、月永美世香氏

5. 閉会の辞 司会 鳴海るみ子  
◇懇親会  
九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。  
17時30分、盛会のうちに終了した。

議長 三輪 秀彰 ㊤  
議事録署名人 田中 貴子 ㊤  
" 野口 悦子 ㊤  
書記 永松はるみ ㊤



学長より感謝状授与

## 平成24年度 総会余滴

総会出欠ハガキの通信欄から、会員の方々のご意見を掲載します。

◎進路、又は就職対策のアドバイスなど、もっと充実していただけたら、ありがたいです。  
(福島県 政経3年)

◎平成二十三年度の就職率はどのくらいでしたか。  
(茨城県 政経4年)

◎地震に対する訓練など学生にさせていただけるといいでしょうか。  
(岡山県 政経1年)

◎この度の震災では、大学関係の皆さまからも温かいご支援をいただき、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。  
(福島県 文4年)

◎『父母会報』をいつもありがとうございます。二松学舎大学の様子等、楽しみに拝読させていただいております。役員の皆様には感謝申し上げます。  
(東京都 政経3年)

《父母会事務局より》  
近年、父母の皆様のご関心の高い事項に就職が挙げられます。  
『父母会報』では、毎号「キャリアアセスターだより」を掲載し、情報提供をしています。また、先日の大九段一号館において行われました地区別父母懇談会(東京会場)にて、本学のキャリアアセスターによる説明と内定学生(四年生)の体験談、そして、内定いただいた企業の人事担当者による説明等がありました。その内容につきましては、次号の『父母会報』第七十八号に掲載する予定です。ぜひ、ご覧いただけましたら幸いです。

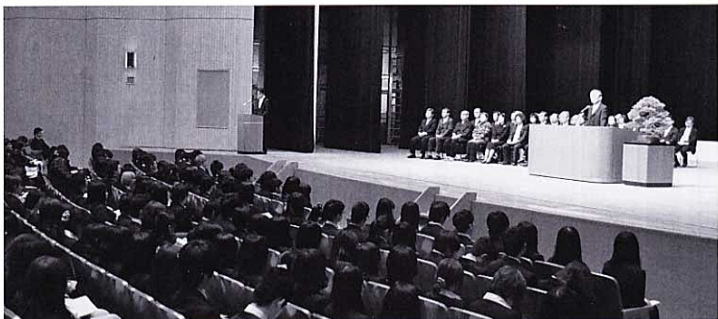
願っております。  
毎年、貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございます。  
今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

### 平成24年度役員

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
岩田 秀生	会長	3年	三輪 秀彰	企画	3年
高野 和基	副会長(学務局長)		小林 良記	広報	2年
吉田 浩之	副会長	4年	田中 貴子	広報	2年
権平 雅子	会計監査	4年	野口 悦子	広報・会計	2年
國府田 恭子		4年	木村 一成	広報	2年
永松 はるみ		4年	倉持 政江		1年
鳴海 るみ子	企画	3年	田中 福男		1年
星 照子	企画・会計監査	3年	小沢 規久子		1年



桜花爛漫の四月の入学式からはや四ヶ月。七〇九名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たに出会う、様々な経験を得た学友が二松学舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科の新入生に書いてもらいました。



国際政治経済学科  
飯嶋 さゆり

期待と不安に胸を膨らませながら入学式を向かえ、早くも四ヶ月が経ちました。

私は大学進学と同時に親元を離れて、全く知らない土地で初めての一人暮らしが始まり、最初は毎日の生活を送っていくのに戸惑ってばかりの日々を過ごしていました。また、大学では人に声がかかれず、友人がなかなかできずにいました。本当にこれからやっていくのかと、毎日が不安だらけでしたが、授業を通して少しずつ友人ができ、大学生活にも慣れ、充実した毎日を送っています。

大学生活は今までは全く違い、中学や高校の時のように、授業から日々の生活まで誰かが何かしら面倒を見てくれたりはしません。毎日の授業からサークル活動まで、自主的に進んで参加しようとしなければ、何もできなくなってしまう。自分次第で良くも悪くも大きく変わっていくってしまうのです。

私はよりよい大学生活を送るために一日一日を大切に過ごしていきたい



国文学科  
中島 真紀

二松学舎に入学してから早くも四ヶ月余、大学生の時間の流れにも随分と慣れてきましたが、今だに新しい出会いや経験が多々あります。最初こそ、新しい環境や一人暮らしの生活に馴染めず苦労しましたが同じ学舎で同じような夢を志している友人と出会い、共に時間を過ごすことで、明るい気持ちになり学ぶことがどんどん楽しくなりました。

そうすると、新しい物事に挑戦することがとても楽しくなり、自らの意志で行動する場面がとて増えました。これが大学に入学してから昔の自分と大きく成長した点です。とても良い傾向なのでこの挑戦する気が変化しない様、いつでも新しい物を求めていきたいと思えます。そして出来ればこの四年間の間に求めることだけでなく、自分からも新しい物を発信していけるような知識を身に付けていければ良いと考えています。それが、私の二松学舎大学の四年間の目標です。

そしてもう一つ個人的な目標として、私の将来の夢である編集・出版



関係の仕事に就くため、その道に関する勉強ももちろんですが古い書をあえて掘り起こし、文学の基本から体に染み込ませていきたいと思っています。二松学舎の持っている文学の全てを卒業までに理解できればと思っています。と、大きな事を言いましたが、勉強だけでなく友人との思い出や信頼も積み重ねていけたらと欲張りと考えています。あくまでも追い詰めるのではなく、ある程度の余裕を持ちながら楽しく四年間を過ごしたいと考えています。

私が進学先を二松学舎大学に決めた理由は、高校時代に御世話になった恩師がこの大学出身であったから。その恩師は国語の授業を通して「学び」ということはどういうことなのかを教えて下さった。その教え故に辿り着いた私の考える学びとは「感謝」であった。



中国文学科  
宮下 哲

恩師は二松学舎大学を誇りに思っていた。それは言葉で誇りを表現していたのではなく、態度で表現していた。恩師は平安の文学を愛し論語を戒めとしていた。又、それらの文学を授業中のみならず普段の生活で楽しんでいたので。そして、恩師は私にこう言った。「物事の本質を見抜く力を養いなさい」と。恩師の文学を味わい楽しむ姿とその本質を見抜こうとする姿こそ、真の学びの姿なのではないだろうか。私は、その恩師の考えの基が二松学舎大学で学んだ東洋の精神にあたると考えている。正直、東洋の精神に恩師がどれほど影響を受けていたかは分からない。しかし、恩師の姿は三島中洲の「義利合一」という考えと一致す

る。自身の欲を尊び且つ、道理を重んじてそれに従い、人道・公共に尽くす。これが義利合一であり、文字に興味を持ち、さらに道理的に考え教育するという恩師の姿もまた、義利合一の表れなのではないだろうか。恩師は、二松学舎大学とそこで学び故にある自身の姿を誇りに思っていた。私はこの誇りこそ最大の感謝の心なのだと思える。

私は二松学舎大学で物事の本質を見極める力を養いたいと考えている。その為には多種多様である文学や文化に多く触れることが肝要だ。この勉強法により、多くの考えを学ぶことができるのだ。物事の本質とは、より多くの視方をする中で見極められるのだ。そして、多くの考えを学んだ上で自身を鑑み、自身の考えを見出したい。

私は将来、恩師のように「自身の御世話になった事物とそれ故になる自身の成長を誇る教員」となり、後世に学びを考えさせたい。



文学部 教授 大地武雄

小学生時代教育熱心な母のような先生との出会いがあり、将来教員になりたいという強い意志があつて、迷わず教育学部を志望した。大学に入學して、ただ教員になるばかりではなく、小中高いづれかの教員をめざすか悩んだ。

一つの契機は、わが家の床の間の愈趨の楓橋夜泊の掛け軸であつた。



国際政治経済学部 教授 土屋 茂

昭和四十三年四月、日本大学法学部に入学し、一般教養を静岡県の三島キャンパスで一年間学ぶことになった。大学進学への明確な目的を持たず、法律を学んでおけば「つぶし」がきくであろうという程度の考えで、法学部を選択していた、いかげんな新入生であつた。ただ大学卒業後長野県諏訪市に帰り、地元で

内容について全く知らなかったが、高校の漢文の授業で習った漢詩が何とわが家の床の間の掛け軸であることに驚嘆した。それ以来、漢詩に興味を持ち、大学に入ってから学部を越えて、星川清孝先生の漢文の授業をとらせていただき、蒙求や古文真宝・古詩源・楚辞等の漢詩漢文にましますのめり込んで行つた。さらに卒論の研究題目「陶淵明研究」まで

一方、視聴覚教育

就職する事は考えていた(長男であるが故に)。

司法試験の存在を知らず、法律の専門科目は二年生以上、東京の三崎町校舎でないとなべない事など全く理解しておらず、友人には無知・世間知らずの学生だといわれ、「法学研究会」に入ることを進められた。

私の学生生活は、一・二年と三・四年に分けて考えることができる。一年間の予定の三島生活が二年間になつてしまつた原因は、入学早々発生した日大闘争(紛争)にある。三

# 私の学生時代

島キャンパスでも五月の連休明けから、各クラスのスト権確立決議に基づく校舎占拠が始まり、翌年の一月機動隊による学生立入禁止措置が六月までとられ、授業中断は一年以上となつた。その間、法研で知つた憲・民・刑の基本書を購入し、独学であるいは数人の勉強会で理解しようとしたが挫折した。秋になると東京から大学院生が指導に来てくれるようになり、民法は少しかかるようになった。先輩からは勉強

現像引き伸ばしての教材作りと利用等に意欲的に取り組んだ。さらに、近くの盲学校へのリーディングサービスなどボランティア活動もした。大学四年次は、教育実習・教員採用試験対策・卒業研究と三つ巴の過酷な現実と直面し、寝る時間もなく奮闘せざるを得ない日々を過ごすこととなつたが、この上もなく充実した日々であつた。



だけでなく人生の色々な事も学んだ。先輩のおごりは後輩に返せということも教えられ、今も実施している。三島の二年間の最も大きな成果は、寮生活を中心に形成された人間関係、友の存在である。潤いもあつた二年間である。

後半の三崎町における三・四年はゼミ中心となり、学ぶ楽しさ、研究する喜びを知つた。平穩な大学生活が一年もなかつた事と合せて、もう少し勉強したくなり、大学院に進学して、今日に至つている。入学当初考えていた人生とは全く異なる道を歩んでいる。

地区別父母懇親会で就職相談をしていると、「子供にどのように接し、サポートしていったらよいでしょうか」という相談がある一方で「就職に関しては子供に任せていますので」という話を耳にします。どちらにしても、何か子供の力になりたいとの事だと思ひます。

親が、子供の就職活動において力になれるのはどの部分でしょうか? 就職活動には、次の3つの要素があります。「自己分析」「業界(会社)研究」「試験(面接・筆記)対策」です。

今回は、この3つの要素について、親子でできることについて考えてみたいと思ひます。

その前に、現在就職活動中の四年生の場合について、何点かお願ひがあります。

まずはお子様の健康管理をお願いします。大学の授業、就職活動と体力・気力ともに消耗しています。肝心な時にダウンしてしまふことないよう、気を付けてあげてください。

次に、金銭面も重要です。交通費・証明写真・証明書…。また、暑い夏を乗り切るために、もう一着スーツが必要となるかもしれません。就職活動は、思ひのほか出費が高むものです。しかし、就職活動に忙しく、アルバイトなどは極力控えてい

るでしょう。かかつた費用は「出世払い」ということにして、悔いのない就職活動ができるようにフォローしてあげてください。

さて、ここから本題です。3つの要素についてそれぞれみていきます。

「自己分析」について 就職活動で苦戦している学生から寄せられる相談の中で一番多いのは、「自分が何に向いていのか分からない」というものです。

「自己分析不足」ということになるのですが、この自己分析というものは、自分だけで考えていても限界があります。また、自己分析が自己否定に繋がってしまう学生も多くいます。そこで、親としてできることは、我が子が「どんな子供だったのか」「現状をどう捉えているのか」「将来どのような人になってもらいたいのか」という過去・現在・未来を親としてどう考えているのかを伝え、話し合つてください。

# キャリアセンターだより

「業界(会社)研究」について まだ、社会に出ていない学生にとって、業種・業界というのはなかなか理解できない世界です。また、

業種と職種について理解していない学生も多々います。

お仕事をされている方は、ご自身の勤務先のこと、仕事内容、取引先のことなど、「働くこと」のイメージができておなことを話してあげてください。

お子さんがアルバイトをしているようなら、そのアルバイトのことを聞いてやり、そこから正社員とアルバイトの違いなどを話し合つてみるのもよいかもしれません。

身近に働く人の仕事から企業研究に繋げていけると、学生にとって会社が近くなるのではないのでしょうか。

また、親の願ひとして、少しでも「良い会社」に行つてもらいたいという気持ちには、当然のことでしょう。では「良い会社」とはどのような会社でしょうか? これには正解がありません。学生が選んだ会社「知らない会社」だからといって、すぐに否定するのは避けてください。「楽天」「ユニクロ」も何年か前には多くの人は知らない会社だつたはずですが、今知らない会社が将来の有力企業になるかもしれません。会社名よりも、その会社が何をし

ている会社で、その会社でどのような仕事をしたのかをじっくり聞いてあげたうえで、業界展望などの助言をしてあげてください。

「試験(面接・筆記)対策」について 筆記試験については、親子というより、本人が頑張るしかない問題です。特に本学の学生は、両学部ともに数学が苦手です。キャリアセンターでも様々な対策講座等を実施しておりますが、ここ最近の講座への参加率は私たちの予想を大きく下回つています。

このような講座に積極的に参加するよう促してください。有料の講座もありますので、その際には費用のご負担をお願いする事もあります。面接対策については、先にご紹介した、自己分析・企業研究を親子で話し合うことで大人と話をする習慣をつけるということが出来ます。

いかがでしょうか。今回ご紹介した事例については、学年を問わず取りかかれる内容です。もうすぐ夏期休暇となります。この期間を利用して、親子で就職について話し合ひをしてみてください。その中で、こんな時はどうしたらよいのかといった相談がございましたら、キャリアセンターまで遠慮なくご相談ください。

### 新入生 歓迎式典

## 「合縁奇縁」

学生会執行委員会会長を務めております。大澤省吾です。新入生の皆さんご入学おめでとうございます。新入生の皆さんはもう大学生活には慣れましたか。大学生活は今までと異なり自分で時間を割り当てて、自分の学びたい事を専門的に学びます。それが大学です。他にも大学入学にあたり上京して一人暮らしをする方もいると思います。新たにアルバイトを始めた方もいると思います。今までと違う環境で大変な事も多いとは思いますが、頑張ってください。さて、四月六日に開催された新入生歓迎式典。式典は新入生と在校生の交流を深め、そして更に、新入生に部活やサークル等の周知を図るために開催致します。今年度の新入生歓迎式典は「合縁奇縁」という言葉をテーマに進めていきました。なぜ合縁奇縁か。それは新入生歓迎式典で出会った人々が生涯通しての仲間となるように、またより良い出会いをもたらすように願いを込め、このテーマにしました。この言葉通りに新入生歓迎式典が皆さんにとって良い出会いをもたらすきっかけとなったのであれば幸いです。今年の新入生は非常に元気で明るい新入生が多かったため例年以上に盛り上がりを見せました。主催側である私たち学生会執行委員会も非常に楽しむ事ができました。またこの新入生歓迎式典が無事に成功したのは父母会の皆さんや教務課の皆さんをはじめ、各部活・サークルの皆さんのおかげだと思えます。心より感謝申し上げます次第であります。新入生の皆さん、二松学舎大学へようこそ。これから楽しい大学生活を過ごしてください。



部活紹介の風景



新入生歓迎会スタッフ一同

カウンセリングの勉強で必ずと言っていいほど出会う言葉に「共感的理解」があります。共感的理解とは、「私とあなたは別々の人間で、私はあなたの心の中を100%同じようには経験できないけれど、もし私があなたの立場だったとしたら、今あなたが経験している気持ちや考えはもったもなことだと思ふ」というような態度です。

## 学生相談室

### だより77

カウンセラー 松平友見

誰でも自分なりの気持ちや考えがあります。が、相手の話を聴く時にはそれをいったん「脇に置き」、相手の立場になってみる必要があります。それによって、カウンセラー自身のものの見方や感じ方のせいで相手の話を虚しく且壊に聴けなくなるのを防ごうとします。

自分の気持ちや考えを脇に置かず話を聞いて「その気持ち、よくわかる。私も同じ気持ちだな」と感じるのは同感 (compassion) であり、共感 (empathy) とは似て非なる心のありようです。共感

はできるだけ忠実に相手の心に寄り添おうと努力する態度ですが、同感では相手の心に寄り添っていない

るつもりで実は自分の心を味わっているだけかもしれません。

カウンセラーの共感的理解は、相手の自己実現を後押しします。人は誰でも自分なりにより良く生きようとする傾向をもって生まれますが、具体的にどのようになりたいのかは、本人にしかわかりません。それを整理してわかってもらう時、自分の立場や考え、複雑な心の機微までを含めて適切に理解し、「あなたが言っているのはこういうことだと(私は)思うけれど、あなたとしてはどうだろうか」と共感的に伝え返す他者が居ることが役立つのです。しかし、それはカウンセラーがその人の自己実現を引き出そうとするのでは

ありません。自然に自己実現が動き出すような安全な場を設け、その人に関心に向け、信頼して待つにすぎません。共感的理解という態度は、人間への敬意と信頼の上に成り立っています。それがカウンセリングの基礎として大切にされる理由のひとつなのでしょう。

# GUTSI 2012 開催

## 柏祭GUTS開催

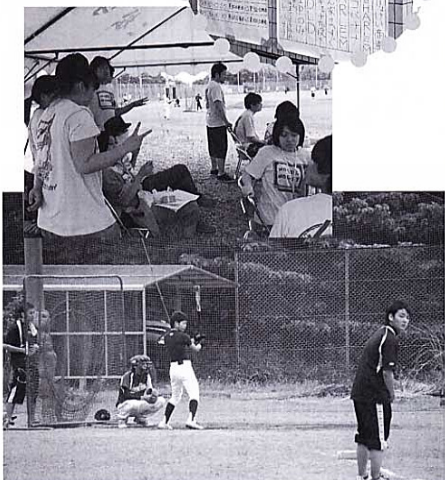
二年 富張 洋樹

今年も、「柏祭GUTS 2012」が七月一日に行われました。当日はぜひ快晴の空の下で願っておりましたが、朝からどんよりとした雲が空を覆い、昼過ぎには雨が降ってきてしまいました。今年行われたバスケットボール、ドッチボール、ソフトボールの三種目のうち、大学グラウンドで行われたソフトボールの中止が心配されましたが、雨が酷くなる前に、無事最終試合を終えることができました。他の二種目も最後まで大盛り上がりの中で終了しましたが、特に今年の柏祭で新たに加わったドッチボールでは、運動系団体だけではなく数多くの有志団体が参加し、白熱した試合を見ることができました。参加者も三百人に手が届くまでに達し、皆様に楽しんでいただけたよう

で嬉しい限りです。

柏校舎は今年で在籍する学生がいなくなる予定となっているので、現在在学する二年生や、柏校舎に通っていた三年生、四年生の中には「今年で柏祭も最後か。」といった声も聞こえました。柏校舎が今後どうなるかは分かりませんが、最後になってしまってもいいので、ご協力いただいた皆様には感謝の意を表さずにはられません。

広大な柏校舎で行う球技大会は、参加者全員が、特に九段校舎に通う学生がのびのびと運動ができる貴重な行事です。もし機会があれば、また柏校舎で参加者の皆様が楽しむ姿を見たいと思えました。



### 平成23年度決算の概要

#### 平成23年度の状況

平成23年度は、附属柏中学校が新入生78名を迎え開校し、附属沼南高等学校が附属柏高等学校に名称変更し、大学では九段集約化が進み柏校舎に通う学生は大学生のうち約10%となった。入学者の募集定員充足率は、大学/学部118%、附属高等学校80%、柏高等学校93%、柏中学校76%であり、在籍者の収容定員充足率は、大学/学部126%、附属高等学校93%、柏高等学校90%、柏中学校76%であった。大学院、附属高等学校、柏高等学校、柏中学校で入学定員、収容定員ともに未充足となり、学生生徒等納付金収入は前年度比減少となった。

昨年3月11日に発生した東日本大震災のため、校舎の一部が破損し修繕費が約1千1百万円発生したほか、被災学生に対し学納金の減免（奨学費約1千4百万円）を実施した。また、台風被害により大学柏校舎1・2号館の屋根補修工事（約7百万円）を実施した。

#### 平成23年度の決算概況

学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す消費収支計算書、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す資金収支計算書および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す貸借対照表から成っており、それぞれ別表1、別表2および別表3のとおりである。

#### 1. 消費収支計算書について（別表1）

消費収支計算書では、帰属収入合計は49億7千7百万円、基本金組入額は7億1千3百万円、消費収入合計は42億6千4百万円に、消費支出合計は49億7千百万円になり、消費収支差額は7億5百万円の消費支出超過となった。

消費収入では、入学者数は大学院22名・学部707名・附属高等学校201名・柏高等学校231名・柏中学校78名、合計4,546名（人数は平成23年5月1日現在）で前年度比7名減少となり、学生生徒等納付金は、37億3千4百万円（前年度比1千1百万円減少）となった。補助金は、7億8千2百万円（このうち経常費補助金は国庫補助金2億6百万円、東京都補助金2億4千1百万円、千葉県補助金2億7千万円）となり、雑収入は1億5千7百万円（このうち退職金団体交付金は1億2千6百万円）となった。消費支出では、人件費は27億7千4百万円（退職給与引当金繰入額増加、柏中学校設置等により前年度比7千1百万円増加）、教育研究経費は13億9千5百万円（前年度比1千4百万円増加）となり、管理経費は3億7千5百万円（前年度比70万円減少）、資産処分差額は固定資産の除却と有価証券の評価替等により3億7千7百万円（前年度比6千1百万円増加）となった。

#### 2. 資金収支計算書について（別表2）

収入の部では、資産売却収入は有価証券の満期償還等により10億6千3百万円（前年度比2億8千万円減少）となった。借入金等収入は5億円の減少（柏高等学校体育館建設資金私学事業団借入金）、学納金等の前受金収入は7億8千7百万円（前年度比8千1百万円増加）、その他の収入は退職給与特定資産からの繰入収入、保証金回収収入の増加により11億1千8百万円（前年度比3億4千6百万円増加）となった。

支出の部では、人件費支出は28億2百万円（柏中学校設置による人件費支出増加、前年度比5千5百万円増加）、教育研究経費支出は8億8千1百万円（前年度比4百万円増加）、管理経費支出は3億4千9百万円（前年度比2百万円増加）となった。借入金（大学校地取得資金）返済および利息支出は2億9千6百万円となった。施設設備関連の支出は校舎の改修・整備、図書・備品購入等で1億2千9百万円となり、資産運用支出は14億7千万円（前年度比11億6千2百万円増加）となった。このほか前期末未払金の支出等があり、これらの結果、次年度繰越支払金は34億4千9百万円（前年度末より7億9千6百万円増加）となった。

#### 3. 貸借対照表について（別表3）

資産の部は、有形固定資産は、大学九段別館の改修・整備、附属高等学校柏グラウンドの整備や図書・備品の購入等により1億3千9百万円増加、減価償却額5億3千9百万円により164億3千6百万円（前年度末比4億円減少）となった。また、その他の固定資産は、次年度償還となる有価証券の短期（流動資産）への振替、退職給与引当金の取崩し等により46億1千6百万円（前年度末比4億5千7百万円減少）となり、流動資産は55億6千万円（前年度比3億1千8百万円増加）となった。

負債の部は、日本私立学校振興・共済事業団への借入金返済等により借入金残高が2億5千2百万円減少したほか、柏高等学校体育館残金の支払いにより未払金が減少し、退職給与引当金、預り金が減少、柏中学校開設により授業料等前受金が増加し、45億9千1百万円（前年度比5億4千6百万円減少）となった。

基本金の部は、第1号基本金（建物・構築物・図書・備品等固定資産の取得）及び第3号基本金（奨学基金）の組入額7億1千3百万円により218億2千万円となった。

これらの結果、貸借対照表は、平成23年度末で資産の部合計額266億1千2百万円、負債の部合計45億9千1百万円、基本金の部合計額218億2千万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費収入超過額は2億2百万円となり、正味財産額は220億2千1百万円（前年度末より7百万円増加）となった。

#### 4. 主な財務比率について（別表4）

消費収支関係比率では、人件費・教育研究経費・管理経費ともに増加したが、帰属収入額が前年度比増加（大学補助金）となり、人件費比率（帰属収入に占める人件費の割合）、教育研究費比率（帰属収入に占める教育研究経費の割合）および管理経費比率（帰属収入に占める管理経費の割合）は低下したが、人件費依存率（学生生徒等納付金に占める人件費の割合）は前年度比上昇した。帰属収支差額比率は低下傾向にあるが、本年度はプラスとなった。貸借対照表関連比率では、固定資産構成比率（総資産に占める固定資産の割合）、流動資産構成比率（総資産に占める流動資産の割合）、固定比率（自己資金に占める固定資産の割合）、流動比率（流動負債に占める流動資産の割合）は、設備投資（大学校地の取得や校舎の建築など）や資産の保有形態のシフト（預貯金から債券へ）などから平成20年度までは固定資産の割合が高かったが、借入金返済や有価証券の満期償還（流動資産への振替）、前受金保有率上昇など流動比率の割合が高くなっている。一方、基本金組入や有価証券評価により消費収支差額構成比率（総資産に占める消費収支差額の割合）は低下傾向にある。そのほか、自己資金構成率（総資産に占める自己資金の割合）及び負債比率（自己資金に占める総負債の割合）、基本金比率、内部留保資産率（財政上の余裕度）、運用資産余裕比率（支出規模に対する資金の蓄積度）、退職給与引当金預金率等は良好な水準にある。

## 山崎ゼミナール

こんにちはー！中古文学の研究を行う山崎ゼミです。授業では歌物語の中でもゴシップの要素を持ちつつ、史実の掘り起こしが求められる『大和物語』をテキストに、本文校異、他出文献、語釈、諸注釈まとめ、現代語訳、鑑賞などを全て一人で、発行、発表を行います。また、年二回行われる合宿では私家集を用いて和歌の解釈を行っています。こちらので、注釈書などが一切ないので、これから自分で調べなければなりません。

もちろん『大和物語』を読むことも和歌を見つめるのも初めてなのでわからないことばかりですが、授業で基本的なやり方を一通り教えて頂いた後はとにかく自分一人です。それが山崎ゼミの最大の特徴です。ですが一人で抱え込むという意味ではありません。「間違えてもいいからとにかくやってみる」と、最初の発表の時、先生はそうおっしゃって下さいました。わからないことがあれば先生はどんなに小さなことでも答えて下さります。また、学部や学校

式です。前期・後期各二〜三回の発表と、夏に行われる合宿（二〜三泊）での発表があります。一人ずつの範囲は、約一〜二ページと少量のため、負担が大きくなり、適切な量だと思えます。カタい話しはこの辺にしておいて・・・。

学生同士非常に仲が良く、授業の雰囲気も和気藹々としていて楽しいです。定期的に行われる呑み会も楽しみの一つとなっています。

カタすぎずゆるすぎず、充実した大学生活を送るには、もってこいだと思えます！

三年 宮ノ入 廣平



これからも山崎先生のもとで文学と向き合っていきたいと思えます。 四年 富樫誠愛恵

## 渡邊ゼミナール

「全ての人間の言語に普遍的な特性がある。」この一文は、チョムスキー（アメリカ合衆国の言語学者・哲学者・思想家）が唱えた理論である。私たちの「日本語コミュニケーション②」のゼミでは、『言語の脳科学』という教科書とチョムスキーの思想を軸に、言語と脳にはどのような関係性があるのかを探究していくゼミナールである。

使ってしまったわけですが、決して気難しく、カタいようなゼミではありません。渡邊了好先生は、見た目通りとても優しくいつもニコニコしていて温厚な先生です。日本語と韓国語の二つを操り、親身になって一人一人丁寧に接してくれます。とても様々な分野の知識に富んでいる先生で、授業中は沢山雑学など話してくださります。

一年を通しての授業の進め方としては、先程紹介した教科書を、学生一人ずつが分担し、一コマ三〜四人ずつ発表していく形で

式です。前期・後期各二〜三回の発表と、夏に行われる合宿（二〜三泊）での発表があります。一人ずつの範囲は、約一〜二ページと少量のため、負担が大きくなり、適切な量だと思えます。カタい話しはこの辺にしておいて・・・。

学生同士非常に仲が良く、授業の雰囲気も和気藹々としていて楽しいです。定期的に行われる呑み会も楽しみの一つとなっています。

カタすぎずゆるすぎず、充実した大学生活を送るには、もってこいだと思えます！

三年 宮ノ入 廣平



これからも山崎先生のもとで文学と向き合っていきたいと思えます。 四年 富樫誠愛恵

# ゼミ探訪

## 平成24年度予算の概要

### 平成24年度の状況

平成24年度は、二松学舎創立135周年を迎える。これを機に「21世紀の二松学舎像（長期ビジョン）」を定め、具体的には5年間のマスタープランに基づき大学の九段集約及び両附属高等学校の改革を推進し、引き続き学生・生徒募集及び広報活動を実施する。附属柏中学校は開設2年目となり、附属柏高等学校との中・高を通じた教育の充実と生徒募集の強化を図る。

キャンパス整備については、大学機能の九段集約化に対応するため、情報センター及び国際交流センターの移転など九段キャンパスの整備が必要となる。また、柏キャンパスの跡地利用方法を検討し校舎整備を計画立てて実施する。

収支については、附属柏中学校の開設2年目にあたり学納金収入が増加する。文部科学省の私立学校経常費補助金予算は大幅増加が見込めないが積極的な補助金申請を行う。資産運用収入は環境の低迷から増加が見込めない状況にある。一方、人件費及び教育研究経費並びに管理経費が増加する見込みである。引き続き大学機能の九段集約化に伴うキャンパス整備の実施により、各種経費（減価償却を含む）が発生する。

平成22年度に大学経常費補助金が不交付となったことにより繰越資金が減少となった。この影響は平成24年度にも及び、収支状況は極めて厳しいものが予想される。今後、大学機能の九段集約や情報システムの更新のほか日本私立学校振興・共済事業団への借入金返済など、長期に亘り多額の支出が続くことが予想されるため、不要・不急の支出は極力制限していくことが必要である。

創立135周年を機に、本学の一層の発展を目指すべく「21世紀の二松学舎像（長期ビジョン）」を策定する。具体的には「長期ビジョン」において大局的な目標を設定し、目標に到達するために解決すべき具体的課題を5年間のアクションプランとして「マスタープラン」に織り込み、進捗を管理しつつ実践していく。平成24年度は厳しい財政状況が予想され、大学九段集約に向けた事務組織の見直し、事務の効率化を図りつつ教職員の定員制の遵守により人件費の削減を図るほか、出資事業会社（二松学舎サービス）の有効活用や経費全般の見直しを行うことにより収支改善を図ることを平成24年度の予算編成方針とした。

### 平成24年度の収支状況

#### 1. 消費収支予算書について（別表5）

##### （1）消費収入の部について

- ①収入の柱である学生生徒等納付金は、37億9千1百万円となる見込みである。
- ②手数料は、入学検定料を主として1億2千3百万円を見込んでいる。
- ③補助金は、大学及び両附属高等学校および柏中学校とも経常費補助金を主な収入として見込んでおり、7億6千5百万円を計上している。
- ④資産運用収入は、安全性に配慮した資産運用を行い、9千2百万円を見込んでいる。
- ⑤雑収入は、退職金団体からの交付金1億4千7百万円と併せて1億7千3百万円を見込んでいる。
- ⑥基本金組入額は、施設・設備の整備及び教具・器具・備品の取得などにより、3億8千2百万円を計上している。

##### （2）消費支出の部について

- ①人件費は、28億7千2百万円（主に退職給与引当金の繰り入れにより前年度比1億1百万円増加）となる見込みである。
- ②教育研究経費は、設備の整備、情報システム関連経費、図書館業務のアウトソーシングほか特別事業費および減価償却額などにより、15億1千1百万円を計上している。
- ③管理経費は、教育研究経費と同様に施設・設備の維持管理費と事務システム関連経費のほか創立135周年記念事業等特別事業費および減価償却額などにより、4億3千3百万円を見込んでいる。

これらの結果、帰属収入は50億3百万円、基本金3億8千2百万円組入後の消費収入合計は46億2千1百万円、消費支出合計は48億5千8百万円となり、2億3千6百万円の消費支出超過となる見込みである。

#### 2. 資金収支予算書について（別表6）

収入の部は、学生生徒等納付金収入、資産売却収入の増加、退職金団体交付金を含む雑収入などにより、当年度収入額は56億8千7百万円となり、前年度繰越支払資金34億4千9百万円と合わせて収入額合計は91億3千6百万円となる見込みである。

支出の部は、人件費・教育研究経費・管理経費支出の増加、借入金等利息支出、施設整備支出の減少等により、当年度支出額は約53億8千1百万円、次年度繰越支払資金は37億5千5百万円となり、収入・支出とも前年度に比べて減少となる見込みである。

別表1 消費収支計算書

(単位:百万円)

科 目	平成23年度	平成22年度	増 減
<b>消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	3,734	3,745	△ 11
手数料収入	123	118	5
寄付金	74	73	1
補助金	782	565	217
資産運用収入	98	108	△ 10
資産売却差額	7	9	△ 2
事業収入	3	3	0
雑収入	157	131	26
帰属収入合計	4,977	4,752	226
基本金組入額合計	△ 713	△ 404	△ 309
消費収入の部合計	4,264	4,348	△ 83
<b>消費支出の部</b>			
人件費	2,774	2,703	71
教育研究経費	1,395	1,381	14
管理経費	375	374	1
借入金等利息	44	40	5
資産処分差額	377	315	61
徴収不能額等	4	10	△ 5
消費支出の部合計	4,970	4,823	147
当年度消費支出超過額	△ 705	△ 475	△ 230
前年度繰越消費収入超過額	907	1,382	△ 475
翌年度繰越消費収入超過額	202	907	△ 705

別表3 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	平成23年度末	平成22年度末	増 減
<b>固定資産</b>			
有形固定資産	21,052	21,910	△ 857
その他の固定資産	16,436	16,836	△ 400
流動資産	4,616	5,074	△ 457
流動負債	5,560	5,241	318
資 産 合 計	26,612	27,151	△ 539
<b>固定負債</b>			
流動負債	3,251	3,519	△ 268
流動負債	1,340	1,618	△ 278
負債合計	4,591	5,137	△ 546
基本金	21,820	21,107	713
翌年度繰越消費収入超過額	202	907	△ 705
負債・基本金・消費収支差額合計	26,612	27,151	△ 539

(注)別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。

別表2 資金収支計算書

(単位:百万円)

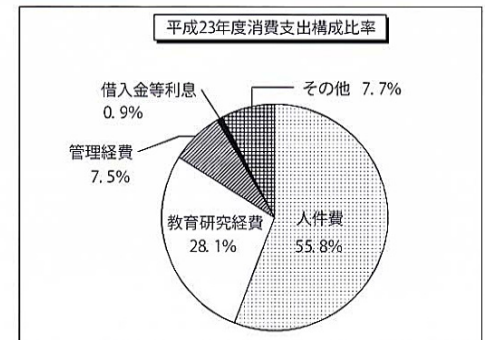
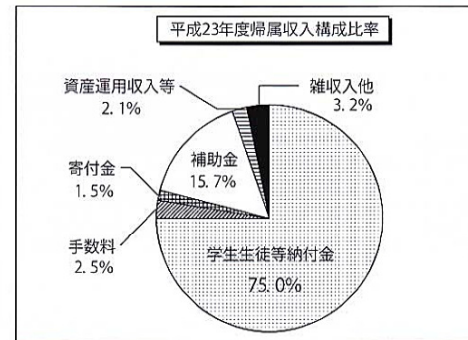
科 目	平成23年度	平成22年度	増 減
<b>収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	3,734	3,745	△ 11
手数料収入	123	118	5
寄付金収入	63	52	11
補助金収入	782	565	217
資産運用収入	98	108	△ 10
資産売却収入	1,063	1,344	△ 281
事業収入	3	3	0
雑収入	157	131	26
借入金等収入	1	501	△ 500
前受金収入	787	705	81
その他の収入	1,118	772	346
資金収入調整勘定	△ 850	△ 1,042	192
当年度資金収入合計	7,078	7,001	77
前年度繰越支払資金	2,652	2,156	497
収入の部合計	9,730	9,156	574
<b>支出の部</b>			
人件費支出	2,802	2,747	55
教育研究経費支出	881	878	4
管理経費支出	349	347	2
借入金等利息支出	44	40	5
借入金等返済支出	252	250	1
施設関係支出	15	707	△ 692
設備関係支出	114	149	△ 36
資産運用支出	1,471	308	1,162
その他の支出	515	1,629	△ 1,113
資金支出調整勘定	△ 162	△ 551	389
当年度資金支出合計	6,282	6,504	△ 222
次年度繰越支払資金	3,449	2,652	796
支出の部合計	9,730	9,156	574

別表4 主な財務比率

(単位:%)

比 率	計 算 式	平成23年度	平成22年度	22年度全期平均
人件費比率	人件費/帰属収入	55.7	56.9	52.4
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	74.3	72.2	95.3
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	28.0	29.1	34.4
管理経費比率	管理経費/帰属収入	7.5	7.9	8.2
帰属収支差額比率	(帰属収入-消費支出)/帰属収入	0.1	-1.5	2.8
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/帰属収入	75.0	78.8	54.9
固定資産構成比率	固定資産/総資産	79.1	80.7	84.4
固定比率	固定資産/自己資金	95.6	99.5	97.1
流動比率	流動資産/流動負債	415.0	323.9	301.6

(注)「全期平均」は、日本私立学校振興・共済事業団集計による学生生徒数3千～5千人の大学法人の平均を示す(107法人)。





別表5 消費収支予算書 (単位:百万円)

科 目	平成24年度 予 算	平成23年度 決 算	増 減
<b>消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	3,791	3,734	57
手数料	123	123	0
寄付金	55	74	△19
補助金	765	782	△16
資産運用収入	92	98	△6
資産売却差額	1	7	△6
事業収入	3	3	0
雑収入	173	157	17
帰属収入合計	5,003	4,977	26
基本金組入額合計	△382	△713	331
消費収入の部合計	4,621	4,264	357
<b>消費支出の部</b>			
人件費	2,872	2,774	98
教育研究経費	1,511	1,395	115
管理経費	433	375	58
借入金等利息	40	44	△4
資産処分差額	2	377	△375
徴収不能額等	0	4	△4
消費支出の部合計	4,858	4,970	△112
当年度消費支出超過額	△236	△705	469
前年度繰越消費収入超過額	202	907	△705
翌年度繰越消費収支差額	△35	202	△236

(注)金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

別表6 資金収支予算書 (単位:百万円)

科 目	平成24年度 予 算	平成23年度 決 算	増 減
<b>収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	3,791	3,734	57
手数料収入	123	123	0
寄付金収入	55	63	△8
補助金収入	765	782	△16
資産運用収入	92	98	△6
資産売却収入	491	1,063	△573
事業収入	3	3	0
雑収入	173	157	17
借入金等収入	0	1	△1
前受金収入	965	787	178
その他の収入	298	1,118	△820
資金収入調整勘定	△1,068	△850	△219
当年度資金収入合計	5,687	7,078	△1,391
前年度繰越支払資金	3,449	2,652	796
収入の部合計	9,136	9,730	△594
<b>支出の部</b>			
人件費支出	2,837	2,802	34
教育研究経費支出	986	881	105
管理経費支出	407	349	58
借入金等利息支出	40	44	△4
借入金等返済支出	250	252	△2
施設関係支出	1	15	△14
設備関係支出	136	114	23
資産運用支出	706	1,471	△764
その他の支出	303	515	△212
資金支出調整勘定	△286	△162	△124
当年度資金支出合計	5,381	6,282	△901
次年度繰越支払資金	3,755	3,449	307
支出の部合計	9,136	9,730	△594

**第十八回 二松学舎大学  
夏期中国語・歴史文化研修**

父母会では教育研究振興のため夏期中国語・歴史文化研修の引率教員旅費に一部助成をおこなっています。

本年度は左記の日程で開催されます。

期 間 八月九日～八月二十九日

研修地 北京大学・歴史学系

引率教職員

【文 学 部】

佐藤 進 教授

松浦史子 専任講師

【教 学 課】

饗庭貴子 (国際交流担当)

参加学生皆さんにとって有意義な研修となりますよう応援いたします。



**編集後記**

今年、創立百三十五年を迎える年、また一年生全員が九段校舎で学ぶことになった節目の年です。皆様にとってはどのような年でしょうか。

二松学舎大学父母会は、平成五年に発足し今年度で二十年になります。創縁祭などの大学行事への助成、課外活動団体助成、奨学金支給や、卒業パーティーを開催するなど、大学や学生への後援活動をしています。

毎年、父母懇談会を各地区にて開催しています。今年度は六月の青森県から始まり、七月の鹿児島県まで、全国七会場で開催致しました。各会場では大学の現状、学生生活や、就職状況についての説明とともに、希望者には個別面談の時間もあり、多くの御父母の参加がありました。

また、「父母会報」を発行し会員の皆様に情報をお知らせしています。今年度第一号の父母会報では、総会の報告をさせて頂いており、細や写真など父母会ホームページに掲載しておりますので、併せてご覧いただければと思います。また、ご意見ご提案などありましたら、お知らせください。

これからも父母会へのご理解、ご協力をお願い致します。